

オーストラリアで学んだこと

藍住東中学校 友成 音映

オーストラリアで過ごした 8 日間の中で、学校でバディの子達と過ごした休み時間と、ホストファミリーとの生活が1番思い出に残っています。

学校は小学生から高校生までが通っていて、とても広かったです。私達に授業をしてくれたインイン先生は明るい方でした。授業中にお菓子をくれてその場で食べたときは、日本との違いを感じて面白いなと思いました。バディの子達は優しくとても明るい性格だったので、普段友達を作るのに時間がかかる私もすぐに打ち解けることが出来ました。会話の中で聞き取れない英語があると、すぐに気づいて簡単な単語に直してくれたり、ジェスチャーを使って表してくれたりしました。休み時間には学校の中の案内をしてくれて、一緒にバレーやダンスをしてとても仲良くなりました。文化交流の日は、けん玉や折り紙と一緒にし、みんなで阿波踊りをしました。その日で学校に通うのは最後だったので、色んな子と写真を撮って、涙いっぱいのお別れになりました。

ホストファミリーは子どもとペットがいない少し高齢なご家庭で、最初は会話が続くか不安で仕方がなかったけど、とてもやさしい方で夕食後にウノなどのカードゲームをしたり、休日には近くのショッピングモールに連れて行ってくれたりもしました。家から学校までは車で30分で、ホストマザーが毎日送り迎えをしてくれました。その道中で、道を走っている車のほとんどが日本のメーカーのものということに気づきました。



また、生活をする中で驚いたことが2つあります。1つ目は、食事の前にお祈りをする事です。オーストラリアではおよそ半数がキリスト教を信仰しています。そのため毎食前に神様に向けて、その日の出来事や感謝の言葉を伝えるのです。そして、食事は毎回フォークとナイフでした。



お箸を使って食べるのが当たり前の日本人の私にとって、ナイフを使うのは至難の業でした。これが海外で生活する中で1番苦労した事だと思います。2つ目は、16歳から運転免許を取得出来るということです。1度だけホストマザーの、16歳のお孫さんが運転する車に乗る機会がありました。免許は取り立てだと言っていたので、結構怖かったです。信じられないくらい車酔いしました。

日本を出る前はホームシックにならないかとても心配でしたが、現地の人達はみんな温かく、8日間は本当にあっという間で、日本に帰らずにずっとここにいたいと本気で思いました。学校のバディの子達とは、帰ってきてからも連絡を取り続けています。今回の研修で視野が広がり、自分の中の当たり前の概念を取っ払う事が出来ました。オーストラリアでのたくさんの出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。この経験をしっかりと生かして今後も色々なことに挑戦し続けようと思います。

